

病防第158号
令和5年5月12日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病 害 名 : キクわい化病

2 病 原 菌 : キク退緑斑紋ウイルス
(*Chrysanthemum chlorotic mottle viroid* : CChMVd)

3 発 生 地 域 : 沖縄本島北部

4 発 生 作 物 : キク

5 発生確認の経緯

令和4年3月、沖縄本島北部の露地栽培キク(スプレーギク)で、葉に退緑、黄化、モザイクおよびわい化症状(図1~3)が確認されたため、7種のウイルスと2種のウイルスに対するRT-PCR検定を行った結果、本ウイルスに対して特異的バンドが検出された。そこで得られた核酸を琉球大学農学部植物病理学研究室、関根健太郎准教授に遺伝子解析を依頼した結果、キク退緑斑紋ウイルス(CChMVd)であると確認された。本ウイルスは本県では未発生であった。発生確認後、令和4年10月に発生地周辺ほ場と令和5年3月に沖縄本島の主要栽培地域で発生状況調査を実施したが、発生は認められなかった。

本ウイルスは平成15年に秋田県のキクで発生が確認され、全国での発生状況は秋田県以外に宮城県、京都府、大阪府、愛知県、広島県、滋賀県、福岡県および島根県で発生が報告されている。

6 病 徴

今回の被害株の症状は下葉に退緑、黄化、モザイクの症状が現れ、株のわい化が見られた(図1~3)。本ウイルスの病徴は新葉の退緑と若い葉の軽い斑紋症状とされており、今回の症状とは異なっている。また、他府県の報告ではえそを伴う明瞭な黄斑を生じたなどの報告があり、病徴は品種や他のウイルスやウイルスとの重複感染などにより異なるとされている。

7 病原菌の特徴と伝染方法

CChMVdは環状1本鎖RNAウイルスで病徴発現系統と非病徴発現系統があることが知られている。寄主範囲は非常に狭く、キクとチョウセンノギクのみで、伝染は接触(汁液)伝染のみで、土壌伝染、虫媒伝染はしないとされている。

8 防除対策

- (1) 健全な穂木や苗を利用する。
- (2) 罹病株を剪定したハサミの刃などに付着した汁液や葉のこすれにより感染するの

で、摘蕾や採花作業時の接触伝染、刃物を介した伝染を防止する。
(3)罹病株は伝染源となるので速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。



図1. 罹病株のわい化症状



図2. 葉の退緑・モザイク症状



図3. 葉の黄化・モザイク症状

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>